

～モバイル脳ドックのご案内～

株式会社フリール



- 商号 : 株式会社フリール
設立 : 1992年6月19日
株主 : オリックスグループ(100%)
2013年5月よりオリックスグループ入り
代表者 : 大久保 輝行
事業内容 : CT・MRI 搭載車等の貸与および巡回サービス
本社 : 群馬県高崎市46-2
拠点 : 全国7拠点

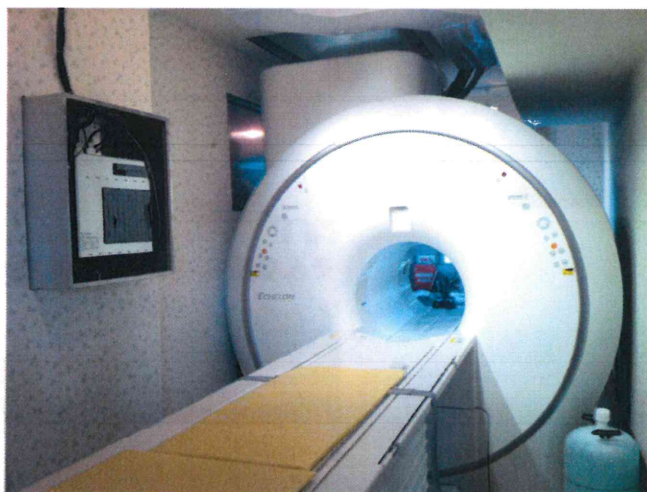
より良い医療を、どこでも、だれもが、安く受けられる社会をめざす

「フリール」の企業理念より

- ・「フリール」とは、ある医師の夢から始まった事業です。
- ・社名の「フリール」Freeillとは、Free from ill すなわち「病気からの自由・解放」を意味します。
- ・日本の道路事情にあわせ、世界最小サイズのCT・MRI装置搭載車を開発し、全国214以上の医療機関様へ貸出中（2019年3月現在）。

MRIを搭載した車両でお伺いします

実施風景



◎MRI（磁気共鳴診断装置）とは
“強い磁場”と“電波”を利用してコンピュータ処理された画像
により診断する医療検査装置です。
放射線による被曝がなく安心して受診することができます。

フリールがご紹介するモバイル脳ドック

脳血管疾患（脳卒中）とは？

脳卒中は
・死亡原因の第3位*1

と発症してからでは遅く、予防が必要な病気です。40歳以上で発症率が上昇するといわれています。



MRI 検査画像

MRI 脳ドックの必要性は？

脳梗塞（血管の詰まり）
脳動脈瘤（血管のこぶ）
脳腫瘍（脳の腫瘍）

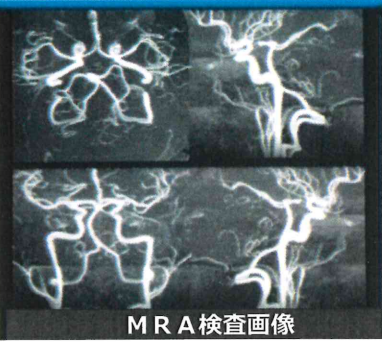
などは、後遺症の恐れがある病気です。早期発見にはMRI 脳ドックの受診が有効です。



MRI 脳ドックとは？

MRI により脳や脳血管を撮影し、脳の健康状態や病気の早期発見を目的とした検査です。

- 所要時間は約25分

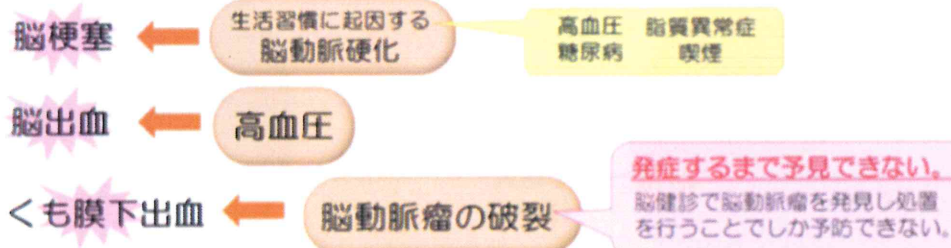


MRA 検査画像

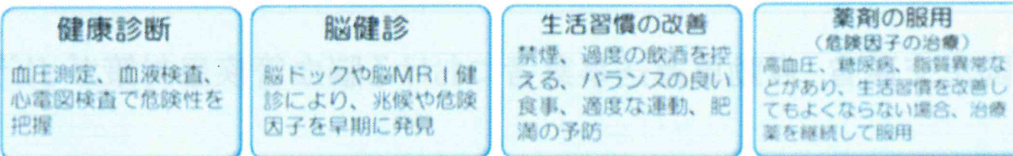
脳血管疾患の予防のため、事業者は、通常健康診断等を通じて、運転者の健康状態や疾患につながる生活習慣の適切な把握、管理に努めましょう。

また、定期健康診断や人間ドックだけでは、脳血管の異常を発見することは難しいと言われています。脳健診を受診させることにより、早期発見に努めましょう。

<脳血管疾患の主な原因>



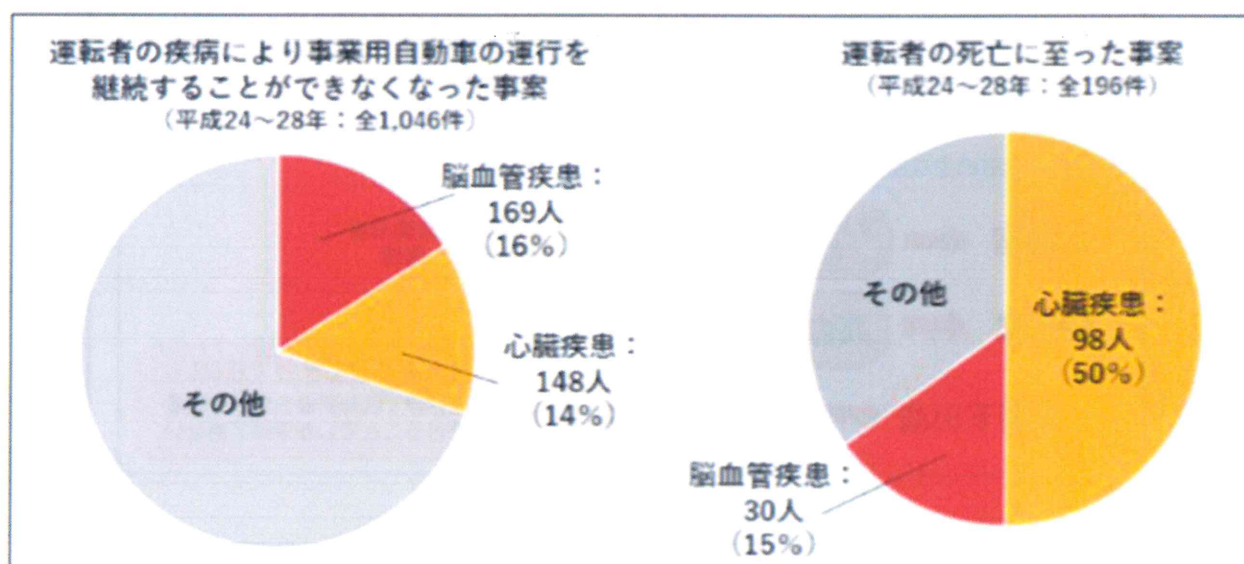
<脳血管疾患の予防法>



脳血管疾患と交通事故

自動車運転中に脳梗塞・脳出血・くも膜下出血といった脳血管疾患が起こると、意識障害、運動麻痺等により、事故を回避するための行動をとることができなくなります。その結果、重大事故を引き起こす可能性が高まります。よって、これらの病気への対処は、発症してからでは遅く、発症する前の予防、発見が重要となります。

国土交通省では、運転者の疾病により事業用自動車の運行を継続することができなくなった事案について、自動車事故報告規則（昭和26年運輸省令第104号）に基づく報告を求めており、平成24年から平成28年までの5年間で、1,046件の事案の報告がありました。その発生件数で最も多いのは脳血管疾患^{*}の169件（16%）であり、次いで心臓疾患の148件（14%）となっています。同期間の報告事案のうち、運転者の死亡に至った事案は196件あり、心臓疾患98件（50%）に次いで、脳血管疾患が30件（15%）と、2番目の原因となっています。



国土交通省 自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドラインより

モバイル脳ドックのメリット

①土、日、祝日でも受診可能

- ・平日の配送スケジュールに影響を与えません。

②検査までの待ち時間がない

- ・検査時間は約25分間です
事前に受診の順番を決め、スムーズに検査を行います

③運転事故の防止対策として

- ・事故防止はもちろん、事故が起きた際、
従業員健康管理状況の事前対策として行えます

国土交通省からもMRI検査の必要性が案内されております

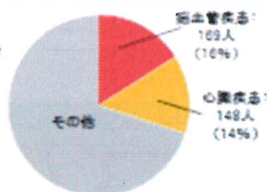
自動車運送事業者における 脳血管疾患対策ガイドライン 【概要版】



運転中に **脳血管疾患** を発症すると・・・

意識障害、運動麻痺により
事故回避措置が取れず、
重大事故を引き起こす原因になりかねません！！

運転者の疾病により事業者が自動車の運行を継続することができなくなった事例
(平成24～28年:全1,045件)



発症する前の脳血管の異常の『**早期発見・早期治療**』が重要です
社内での **脳健診の活用** を検討しましょう

運転者が健康で安全に業務ができる職場環境にしましょう

自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドライン

検索

国土交通省・自動車総合安全情報ウェブサイト
<http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03manual/index.html>

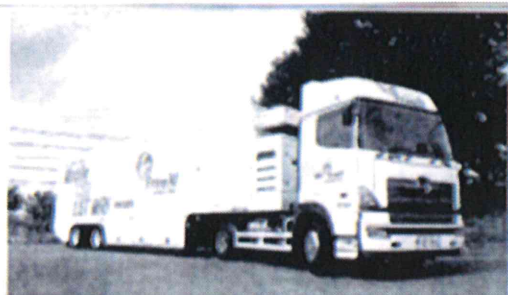


国土交通省自動車局 平成30年2月

新聞でも紹介頂きました

短い待ち時間が好評

フリール巡回脳ドックを提案



フリール（大久保）では、「健康経営」に力を入れる事業者が多くなっている。さらに、国交省の「自動車運送事業者における脳血管疾患対策ガイドライン」において、脳ドックは事業者がドライバーに対して積極的に脳検査を受診させることが推奨され、各県と協においても、脳ドックに助成金が出ることもある。

しかし、MRI脳ドックを病院で受診する場合、事前に予約をしておく必要があり、往復の移動時間や待ち時間などを含めると、半日以上を費やしてしまう。そのため、検査を嫌がるドライバーも少なくない。また、平日に病院で検査を受診させるためにドライバーのシフトを組みなおさなくてはならず、ドライバーと事業者双方にとって頭を悩ませる問題ともなっているのが実情だ。

同社の展開するMRI搭載車は、提携の検査機関と組んで巡回脳ドックを運送する。事業者が事前に予約申し込み（平日・休日対応可）し、本社搭載車の物理的な搬入条件さえクリアしておけば、事業者の指定する駐車スペースに、MRI搭載車を直接搬入することが可能で、1人当たり問診も含め脳ドックであれば40分ほどで検査が終わる。例えば、予めスケジュールを組み、時間に来れば待たずに検査を受けられる。一日15人から申し込みができ、最大20人前後のMRI検査を行えるという。

同社では、以前からクリニックや、病院などの診療向けにCT・MRI搭載車のレンタルを行って来たという。大久保社長は、運送事業者へ脳ドックの提案を進める理由を、「貨物・旅客運送事業者様の『健康経営』への高まりが決め手となっている」と説明する。

「現在、運送事業者様へ当社MRI搭載車を利用した巡回脳ドックで『大好評なのは』待ち時間が

少ないこと」で、従業員への福利厚生対策として取り入れるところも多い」と明かす。

「仮に一つの会社で15人集まらなくても、何社か合同で検査提案をすることもできる」とし、その場合も相談を受け付けるといふ。その上で、同社長は「現在は、各都道府県と協でも補助金を出しているところもあるのだから、ぜひこの機会に活用してほしい」と呼びかけている。

（荒沼 漢）

ご利用までの標準的なステップ



- 貴社のご要望に基づき、貴社のご推薦またはフリールにて手配する検診機関に協力を要請します。
- 検診および診断行為は検診機関に委託します。

モバイル検診料金に関して(2017/4より)

➤ モバイル検診に関してはフリールの指定する協力健診機関が検査を実施いたします

	C T 肺ドック検診	M R I 脳ドック検診
一日あたり最低実施人数	35人以上	15人以上
東京・埼玉・茨城	11,000円	32,000円
神奈川・千葉・群馬・栃木	12,000円	33,000円

フリールが、皆様の勤務先へ、「CT/MRI モバイル検診」をお届けします。

＜サービス提供会社＞

株式会社フリール

営業推進部 担当：佐藤・森田・住吉

〒370-0052

群馬県高崎市旭町46-2 高砂ビル高崎西口7階

TEL : 027-329-7080 FAX : 027-329-7082

(平日9:00-17:00)